

振り返る

有森信二

これからだ　これからだと
呪文のごとく言い聞かせている
とはいえ我が来た道は
どこへ
という思いに絡まれる

振り返ることなく
前進あるのみと考えてきたが
我が来た道は　はて
とふと思ったりする

過去は過去
すべてはこれからだ
との考えに立っているのに
口惜しいことが

幾つも幾つも浮かんでくる
はつきり言えるのは
枯れてきたりなんか
する気配もないということだ

すべてはこれからだけど
事實は事實
結果は結果
丸ごと引き連れて
行くよりほかない

いのち

いのちはこの世限りのものだと
思っていた

貧乏でも
金持ちでも

帝国大学出でも
性悪でも

心臓病持ちでも
ころりと死んだ赤ん坊も
あちこちにわんさと

子供をこきえた
ホラ吹き男も

包丁で斬り付けた女も
詐欺でふんだくって金を貯め

素知らぬ顔の男も
数百万人の上に立ち
ふん反り返れるだけ

ふん反り返っている　男や女も
一回限りの
いのちだったら
やりたい放題の
し放題

耳をとき澄ましながら
聞いた

目をまつさらに凝らしながら
見た

何も聞こえないし
何も見えないが
最近

ようやく必死に
何者かが呼びかけて
くれていることに

気付いた

津波で流されたり
放射能を浴びたりして
これで

いのちが一回きりでしかないのだとしたら
示しがつかないだろう
フツ―に 考えてもみな

懸命にそれは
ぼくの胸を叩き
呼びかけているのだった
一回きり なんて
誰が言ったんだい
いのちは死んだり
しないんだ
決して死ぬわけないんだ
いのちは
いつも生きてるんだ
ほら
わかるだろう
波打ち際や空の上や
ここにも そこにも
こちらにも

ほうらね

冬が音たてて

冬が来る
音たてて来る
びようびようぶんぶんぶん
北風が走る
がたびしばたばたーん
雨戸が鳴き出す
ぞぞだだだだだだだだ
雨が雪をとめない
ガラス戸を打つ
しゃーんしゃーんしゃんしゃん
寺の鐘の音も
声嘎れで

冬が音たてて来る
喚きながら走つて来る
猫がぎやがぎやが

もつれ合い
犬が板戸を食い千切り
さかさかさかさかさかさ
かさかさかさかさががびゅうびゅう
屋根かけ上がる

男はひもじい心のままに
しゃにむに歩き出す
がむしやらに足を掻き
顎の外れた
己の来し方を
雪が消してくれるのか
くれないのか
問題は男自身がどこに立って
いるのかを
見失ってしまっている
ということ
ここは どこ
俺はどこを歩いている
吹雪激しく

向こうがまるで見えないほどに
舞い煙る

冬がやって来る

音たてて来る

山の上に

家々の屋根の上に

海の上に

地を這う風とともに

空を巻き上げる風とともに

宙空から唸り始める

ラッパや盗人猫や

野良犬の叫びとともに

路標にしがみついた男を浚い

ひゆうるうひゆうるううう

ごあっはごあっは

はははっはひゃあひゃあはっは

冬が来る

冬が音けたてて来る

憩い

僕に限って地上には

憩いの場はないのかもしれない

憩いの時間はないのかもしれない

四十年以上前の手術場で

僕は生身を刻まれていた

一時間で切れた麻酔の後

三時間のあいだ腹は開かれたまま

腸が切り刻まれた

痛いという言葉は空しく

涙ぐみそうなほどに哀しい気持で

どうであれ何もかも許したい気持で

進み具合を見ていた

手術台の上から

ふらりふらあり

天井のあたりを彷徨いながら

ゴボつと空高くに移動したり

日の当たっている屋根や尖塔の色を

眺めわたしたり

するりと手術場に戻ったりしながら

呪縛から放たれた今は

何とも快適でしかない

というのが最も適切に言い表そうとする

ことなのだった

やばいよやっこさん

まだ息がありそうか

難しいところに来ちまった

まいっとな

医師は懸命にメスをさばいている

看護婦もどす黒くなった目の隈を

だらんと弛ませ

ゆるゆる従っている

何と四時間が経ったのだ

もういいですよ

僕の言葉が唇をそう動かしたのだが
声にならないのだろうか
本当にいいんですからもう

ヨッシャー一丁上がり

医師はメスを放り出すと

その場にへたり込んでしまった

看護婦があわてて医師の顔を覗き

僕の顔を覗き込んだ

ビシビシと打つ

人の指が頬で鳴る

天井に浮かんでいた僕が

その迫力にあわてて手術台の僕の内に

潜り込み

蚊の鳴き声を真似たのだった

助かったんだぞ君

医師が足をよろけさせながら

僕の頬を打っている

マスクを外し

伸び出した無精髭の顔を綻ばせ

僕の下腹部に激しい痛みが戻ってきた

イキ・テイル・ラシイ

憩いのただ中にいる

と思っていた筈だったのだが

医師と看護婦の必死の声に

反応しないのも具合悪いなど考え

次の瞬間には

あまりの痛さのために

声にならない呻きを

発した筈だ

余計なことしなくていいですよ

余計なことですよ全く

こんなに

気持ちよく

空を泳いでいたというのに